

蓮如上人ものがたり  
同座のご教化

蓮如さまが、本願寺第八代の門主をお継ぎになりましたのは、四十二歳のとき（長祿元年1457）でありました。お父さまの存如上人が亡くなったからです。

しかし、このお世継ぎのことは、決してスムーズにいったわけではありません。お父さまの譲り状があったとはいへ、もともと蓮如さまは、「氏素姓のわからぬ先妻の子」と見られていました。ことに、継母やその子（応玄といいました）からは、ずっと邪魔物扱いされてきました。激しい相続争いがおきたのは当然でした。しかしそのなかにありながら、蓮如さまは人々の支持を得てご門主になられたのです。

当時の人々はなぜ蓮如さまを支持したのでしょうか。それは蓮如さまの「同座」の姿勢にあったといえるでしょう。古い家柄血筋をかさにきた権威主義。既成仏教の教理に立てこもり、人々を愚弄している聖者つらの僧侶たち。それらに、胸をはって立ち向かっていく蓮如さまにこそ引かれたのです。蓮如さまの学問は、沢山のお聖教のお書を、一字一字でいねいに書き写すことよって、ご自身のからだに消化吸収していきました。またお父さまといっしょに、ご開山親鸞聖人のあゆまれた跡を、実際に自分の足で歩いて確かめると

いうそのような態度でありました。理屈や権威ではなく、一人の求道者として、一点を見据えて立ち上がられた蓮如さまに、多くの人は感動したのでした。

蓮如さまは、ご門主にお就きになると、すぐいろいろな改革（イノベーション）に着手なさいます。

たとえば、お説教のとき、僧は上壇から教え、お同行は下壇で黙って聞くというのが常識でした。もしそのとき同行のなかに居眠りするものがあると、僧は壇上から、三〇秒ほどの竹べらを投げ付けるといふ具合でした。

蓮如さまは、そんな権威主義的なやりかたを、一挙に撤廃されました。壇の上下をとりはらい、

身をすてて（身分や権威を脱ぎ捨てて）平座にもみなと同座するは、（親鸞）聖人のおおせに、「四海（世界中）の信心の人はみなきょうだい」とおおせられたれば、われもその言葉のごとくなり。（御一代記聞書）

といて、人々と同じ平座にすわり、ひとびとのくらしに同座して、話し合いをしてくださいました。「百のものを十に縮め、十のものを一にするように」なるべく簡明直截に、また、みなな生活のなかに話題をとるなど庶民のくらしにみじかなところまで話し合いをしてくださいました。

しかしこうした、知識や権威を認めないやり方には、当然弾圧や反発がありました。

第一、当時、仏教・宗教はわがものと思いがちだった比叡山の怒りに触れないではいけません。蓮如さまの後半生は、この弾圧に、民衆大衆とともに、たたかって行かれた生活であったのです。

永代経ご案内

七月八日 夜8時  
ご法話 川本 法綱師（養父西願寺）

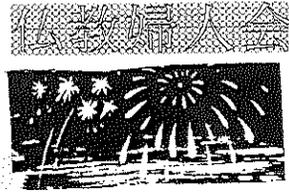
☆送迎マイクロバス  
夜7時 栗尾発  
7時40分 榎見発

九日  
9時 仏婦総会  
2時 永代経

作品展示会



勝林寺



総会

七月九日  
午前9時 受付  
9時半 開会のことば

『真宗宗歌』（献花・献灯）  
おつとめ（正信偈）  
坊守あいさつ  
会長あいさつ  
（会務報告）  
（会計報告）  
閉会のことば  
ご法話「真実にいきる」ご住職様

七月のこよみ

- 一日 即如ご門主さま勝林寺ご巡教
- 二日 岩上三喜夫氏宅法事
- 三日 高福寺永代経
- 四日 高福寺永代経
- 五日 神戶別院ご消息披露
- 六日 永代経莊嚴展示準備
- 七日 永代経
- 八日 永代経
- 九日 勝林寺仏婦総会
- 十日 永代経
- 十一日 正福寺永代経
- 十二日 正福寺永代経
- 十三日 玉日会定例法座
- 十四日 出石組寺族婦人研修旅行
- 十五日 出石組
- 十六日 蓮如上人遠忌ご消息披露
- 十七日 中山隆男氏宅仏壇遷仏法要
- 十八日 永井淳氏宅法事
- 十九日 出石組『連研』（西宗寺）十六夜会定例法座
- 二十日 住職渡米（二十九日まで）
- 二十一日 山田花子氏宅法事
- 二十二日 みのりを聞く会定例法座
- 二十三日 但丹ブロック仏壮研修
- 二十四日 前坊守祥月法要
- 二十五日 高岡教区黎明講座（八月五日まで）



行く末は  
弥陀にまかせて  
お念佛

播磨中組 金河 寺



拝む手

わたしの村には、お寺さんが五ヶ寺もあります。  
日蓮宗と禅宗が一ヶ寺ずつ。お東さんが一ヶ寺で、あと二ヶ寺が浄土真宗本願寺派です。  
なんでもこの村は、昔は、船の交通の要衝で、天領であったとか。幕府のお代官さまがいて、随分ハッコウしていたのだそうです。そいでこんなに寺も多いのだと聞きました。

朝、散歩の途中、法華さんの掲示板に、こんなことが書いてありました。

「拝む手が とがる世間の 角をとる。手を合わせ 心あわせて しあわせに」

いい言葉だし、第一 散歩の歩調にピッタリのリズムがころよ。

その通りその通り、と口ずさみながらあじわった。

「拝む手が とがる世間の 角をとる。をあわせ ころよ合わせて しあわせに」

ある朝、庭掃除をしていられたそのご住職さまに聞いたら、これは法華経のなかに出てくる常不軽菩薩(じょうぎやうけいぼつ)のことだそうです。

この菩薩さまは、だれでも彼でも手を合わせ頭を下げて合掌しなされたそうです。それで世の中がとても明るくなごやかになつたそうです。

聞いて見ると、なるほどこれが仏教のころかとうなずけました。  
ところが数日して、今度は浄土真宗のお寺の掲示板が変わっていました。

「拝むものも 拜まれている 拜まないものも なお拜まれている」

有無をいわさぬ説得力。

ああこれが仏教、如来さまのはたらきだったのか。今度は散歩の足がハッと止まっ てしまいました。

拝むものも 拜まれている

拜まないものも なお 拜まれている

拜まないわたしが なお 拜まれている。

如来様のお冥加のなかのわたしの空おそろし。

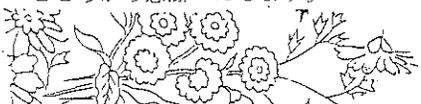
「仏法のうえには、事ごとにつきて、空おそろしきこと」と思わねば、とおっしゃる蓮如さまのおことばどおりと、いただきせでもらいました。

6月25(日) ご門主ご巡教お待ち受け 永代経法要準備

おみかき清掃奉仕に 50人



本堂内陣・外陣の清掃とお荘殿、仏具のお磨き、そして主に男性は、庭木の剪定と境内の土入れ整地。門・高塀の水洗いなど、すみずみにおよぶまでのご奉仕作業でありました。ころから感謝いたします。



葬儀

六月十八日

中山 鍛治屋 秀男様

納骨参拝研修旅行

50名こす参拝者



納骨参拝研修旅行に 参加して

参加した感想を書きます。もう十年にもなりますが、義母のお骨納めに、この「納骨参拝の研修旅行」に参加させていただいたことがあります。こんどは里の実母の遺骨のおともをして姉妹二人でお参りしました。

参拝・観光の道筋は、以前と殆どかわりはありませんでした。大谷本廟での納骨法要、吉崎ご坊の参拝、兼六公園、かまぼこ会館。

しかし、コースは同じでも、雰囲気というか、一台のバスの中の活気は、一段と前向きであったと思います。

それは第一、参加者が多かったこと(

今年は納骨が14もあった)。お世話役の仏壯夫婦役員のかたがたが、誠心誠意お世話くださったこと。バスガイドさんがとても「さわやかさん」であったこと。それともうひとつ、来月一日に、ご門主さまのご巡教をひかえていて、そのお待ち受けのところが、みんなを一つに引き締めていたのではないだろうか。

役員さんのふっとしたことばに「勝林寺はこれで大丈夫」とおっしゃったことに、わたしもころから賛成しました。



仏婦会員のみなさまへ 展二小△云作口叩の賞券集

みなさま予てからご承知のように、毎年、仏婦総会の記念行事の一つとして、作品展を致してまいりました。

この展示会は、亡くなった坊守さまがはじめてくださった、言わばお形見の行事です。

ことしは、いろいろな都合で、ご案内や募集が遅れましたが、どうぞ挙げて出品くださいようお願いします。

書道・花道の作品。押し絵・編み物などの手芸品、絵画や写真など、巧拙を問わず、ただ、ころを御仏様にお供えいたしましょう。

仏婦会長 中嶋 綾子